



なかがめ きょうへい
仲亀 恭平
(つなぐ)

教 育 民
市



不登校への理解と行動を広げる「白書」を創れないか？

問 不登校の小中学生が367人に達している。実態をまとめた富士宮市独自の不登校白書を作るべきではないか。

令和6年度データ

合計 367人

小学校 165人

中学校 202人

約26人に1人が不登校

教育長 当事者への配慮から策定は考えていない。独自の月次分析で現場のニーズを把握し、支援につなげている。

問 塾の講師などの民間を活用した令和型の学びを導入し、学習支援を強化できないか。

教育長 今は心の居場所を求める子どもが多い。まずは不登校対策支援員を増員し、思いに寄り添った支援を心がけている。

問 保護者は不登校支援情報をどう得るのか。



こまつ かいぞう
小松 快造
(つなぐ)

企 画



人口の推移について

問 ①富士宮市の人口推移について(過去5年)。
②富士宮市におけるこれまでの対策及び成果。
③富士宮市での外国人移動状況の現状について。
④富士宮市における男女別の転出入の現状は。
⑤女性の活躍に関する取組と人口減少社会を前提とした適応策について。

部長 ①令和4年は13万153人、令和5年は12万9250人、令和6年は12万8169人、令和7年は12万6857人、令和8年は12万5771人。
②若者や女性の転出超過は、本市にとっても人口減少における重要課題の一つ。U・I・Jターナー者への就労支援の取組として、企業ガイダンスの実施、キャリア教育支援、市内企業への採用力強化・機会創出支援、Uターナー者雇用創出奨学金返済補助。移住・定住の促進に向けた取

教育長 担当が窓口。

不登校対策支援員、青少年相談センターも対応。

要望 情報の届かぬ保護者に対し、スーパー等生活圏内での積極的な情報発信をお願いする。

高額報酬という甘い言葉で、こどもが知らぬ間に犯罪に加担する「闇バイト」...

犯罪の脅威からこどもを守るために

問 危険性をどう認識しているか。

教育長 重大な犯罪と認識している。

SNSの甘い言葉で犯罪実行犯を募る闇バイトに対し、警察庁が注意喚起している。

問 小中学生に及ぶ闇バイトの危険性は？

部長 中学生逮捕の事例も発生。(県外)個人情報で脅され離脱困難になる恐れがある。



要望 最新の手口をゲームで体験し、危険を察知する能力を養う民間教材の活用を提案する。

教育長 確認する。

部長 絶対に市民が巻き添えになってはいけないと考える。

組として、移住・定住の促進に向けた奨励金、支援金などの支援を行っている。

取組の成果に関して、外国人を含めれば若干の転入超過となっている。日本人のみでは転出超過が続いており十分な成果が得られていない。

若者や女性の転出超過は、社会情勢の変化や個人の意識など複合的な要因が関係している。

非常に重要な課題であると認識している、今後も中長期的な視点に立って施策を推進していく。

③過去3年間における外国人の転出入者数は、1010人で転入超過となっている。

④富士宮市における男女別の転出入の現状は、過去3年間における合計人数は男性393人の転出超過、女性も556人転出超過が現状である。

⑤女性の転出超過は、その自治体が若い世代や女性に選ばれる地域であるかどうかが大きく影響すると考える。第6次富士宮市総合計画では、若者や女性にも選ばれる地域づくりを重点取組の一つとして庁内横断的に展開する。

